

生物科学学会連合 第7回連絡会議記録（案）

日 時： 2002年5月29日（月）午後2時～4時15分

場 所： 学士会分館（東京・本郷）

出席者： 永田 和宏・後藤由季子（世話役，日本細胞生物学会）

河野 重行（日本植物学会）

長田 敏行（日本植物生理学会）

長谷川政美（日本進化学会）

小幡 邦彦（日本神経科学学会）

正木 春彦（日本生化学会）

片山 舒康（日本生物教育学会）

石渡 信一（日本生物物理学会）

金子 章道（日本生理学会）

八杉 貞雄（日本動物学会，日本発生生物学会）

菅原 美子（日本比較生理生化学会）

荒木 弘之（日本分子生物学会）

清野 宏（日本免疫学会）

松木 則夫（日本薬理学会）

（欠席） 日本遺伝学会 日本解剖学会 日本神経化学会 日本生態学会 日本比較内分泌学会
（敬称略，学会名五十音順）

配布資料： 0. 第7回連絡者名簿（2002.5.29）

1. 第6回連絡会議記録（案）

2. 「趣意書：新しい時代の総合的な生命科学の教科書をつくろう！」

3. 新聞記事

4. 生命科学教育体系化委員会委員名簿

5. 教科書検定に関する意見書（案 ver.3.2）

6. 生物分野の具体例

7. 学校理科第2分野の教科書をとおしてみた生物教育の課題

8. 「平成18年度からの大学入試センター試験の出題教科・科目等について—
中間まとめ—」に対する意見書（案 ver.3）

9. 平成14年度東京大学の例—教職員免許状取得について

議事に先立ち，世話役の日本細胞生物学会・永田会長から挨拶があった。

議事要旨：

1. 第6回記録の確認（資料1）

原案通り承認した。

2. 教科書問題をめぐって（資料2～4）

昨年から発足した連合の教科書WGの活動状況について正木会員（日本生化学会）から報告があった。高校と大学を繋ぐ教科書，インターネットの活用，基礎に力点を置く，学会の看板は外す等がWGの方針となっていること，現在15学会からWGへの参加協力を得ていること，大枠の議論の後，これからミニマムエッセンシャルとなる項目の整理作業に入ること等が報告された。

これに対し，高校の教育現場で実際に使われるのかといった疑義が出されたが，WGでは教科書として使われることを想定しているのではなく，むしろ教員を対象としたガイドラインのような使

われ方を望んでいることが表明された。「教科書」の呼称が誤解を招いているかもしれない、との発言もあった。

WG委員が遠方より参加する際の旅費や当面の事務費について、連合加盟学会に対して援助の要請があり、連合とWGの連名で加盟学会に一口5万円で寄付を募ることが承認された。文案作成は正木会員、入金先は連合の事務局とした。

オンライン関係の費用も膨らむことが予想されるため、早期に出版社と提携し、資金調達して進めるべき、との意見もあった。今後の計画についてWGで原案を作成することとなった。

3. 「教科書検定に関する意見書」について（配布資料5～7）

理数系学会教育問題連絡会の「教科書検定に関する意見書（案）」に沿って報告があり、これに対し、このたびの検定の理不尽さに憤懣が続出した。根本問題は検定制度そのものにあるも、制度の廃止を目指しても現実的ではなく、検定内容の是正を求めるに留まることを受け入れつつ、連合としては数物系教育連絡会の意見書案を生物系により近い文案として作成し（片山会員担当）、次回連絡会での合意を目指して、それまでの間は文案をメールにて各学会に回覧し、意見を集約することとし、連合独自に文科省へ意見書を提出することとした。

4. センター試験出題教科・科目について（配布資料8）

平成18年度実施予定の入試センター試験出題教科についての中間まとめに対し、物研連物理教育小委員会の意見書が紹介された。科目のグループ分けに不合理があり、高校での理科の履修のあり方に悪影響を及ぼすとの指摘である。本件については、各学会に一旦持ち帰り、建議あるときは次回連絡会に提出してもらうこととした。

5. 理科系教員をめぐる問題について（資料9）

教員資格取得カリキュラムの変更により、教員養成系以外の学生が資格を取得しづらくなり、文系出身教員が理科の教育現場を占めるという貧困状況が加速することへの懸念が示された。この問題に対しては、文部科学省からは、「教員としての専門教育を受けたことのない未熟教員が教育現場の荒廃を招いている。この予防措置として、教員に必要な科目履修および実習を増やしたカリキュラム変更は妥当である」という意見も出された。連合として戦術が求められることとなった。

6. 実験動物を巡る問題について（金子会員、日本生理学会）

鳥獣保護法の審議が進んでいる。これによると学術研究のための捕獲は許されず、実験用動物は飼養し続けることが求められている。片や有害鳥獣は税金を使って駆除されている。生命資源の有効利用のために捕獲動物を実験に供せられるよう訴えてゆきたい。連合の協力を重ねて要請したい。

7. 世話役について

次期世話役は、日本遺伝学会にお願いすることが決まっている。次期副世話役は立上げ時の呼掛け学会のうち、未だ世話役をお願いしていない日本分子生物学会に引き受けていただくこととした。

8. 年内に再度、連絡会議の開催を予定する。

以上